

EM活動は、E(いー)M(もんだ)！

EMでの環境活動をしていても、なかなかその意義を知ることはありません。そこで、今回はEMの活動の目的について、例をあげて説明したいと思います。

例えば、米のとぎ汁はどうでしょう？
米のとぎ汁はすごく栄養が豊富で、そのまま排水溝に流すと、微生物が食べてしまい、その時水中の酸素を使用します。酸素が失われると、他の有機物が分解できなくて、環境を汚染するといわれています。
では、EMで米のとぎ汁を発酵させるとどうでしょう。排水中には安全な微生物がたくさん増え、有機物を分解し、分解物も動物や魚のえさになってくれます。

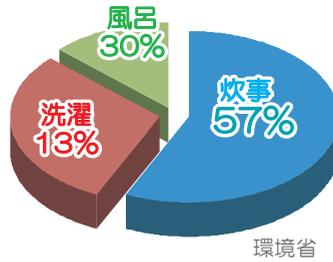


図 生活排水の内訳

炊事排水は家庭排水の57%も占めており、さらに家庭排水は全排水の70%もの割合にもなります。私たちが意識すれば、環境は絶対良くなります！

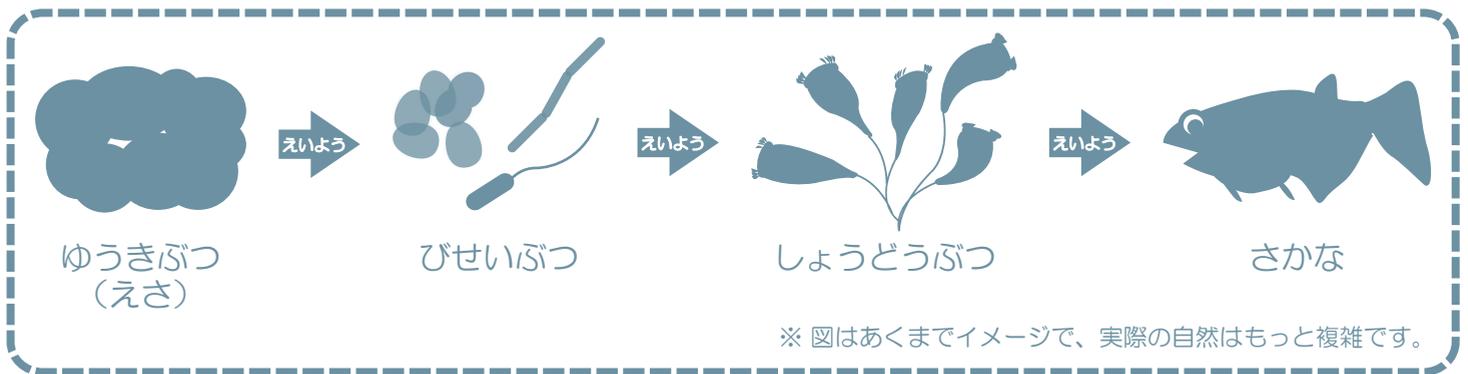
EM活動の目的と目標

EM活動の目的は、「環境をよりよくすること」。その目的を達成するために、皆さまは次の目標に取り組んでいます。

【目的達成のための3原則】

1. いい環境を取り戻したい！
2. 汚染源を浄化源に
3. 生き物がわいわいしている環境づくり

一番はじめに、問題意識をしっかりと持ち、問題を逆に手段にしてしまうこと。そして、最終的な目標は、生き物がイキイキしている環境が出来上がることといえます。

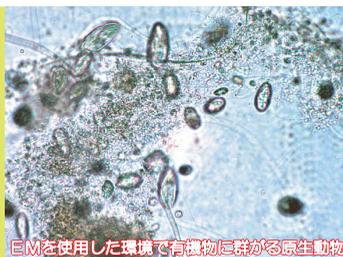


「だって、せ～んぶ “けいそう”」

よくよく調べてみると、有機物は汚染の犯人扱いです。排水の中身はあまり重要じゃないよう・・・でも、分解するのが大変か大変じゃないかも考えてみるのも良いのではないのでしょうか。
EMで米のとぎ汁を発酵させると、排水中の有機物が、動物や魚の栄養や良い菌のかたまりになってくれるので、単なる汚染源が、役に立つ資源へと変わってくれます。私たちは有機物の中身をよく知って、これからは“環境に役立つ排水”を意識しましょう。

EMレポート

EMの研究者さんのお話では、環境水をフラスコ内で放置した場合、EMを添加することで、原生動物が他より多くなる様子を観察できるそうです。
自然界には元々多くの生物がいるのですが、増えにくい環境になっているそうで、そのお手伝いをするのがEMの重要な役割だそうです。



EMを使用した環境で有機物に群がる原生動物

自然の中には生物がいっぱい！
EM菌は、仲間を増やして、環境をよくすることが仕事です。

Q&A BODってなんですか？

呼吸する微生物が有機物を分解するときに、使用する酸素の量をデータにしたものです。有機物は分解される時に、酸素がなくなるので、このデータが水の中の汚れをおおよそ示すために使われたりします。

悪いこと探しではなく、できることをみつけること。そんな活動に参加しませんか？

お問い合わせ先

合同会社イーエム技術開発

TEL 050-2018-0107